

Group Investigation のモデルによる エイズ教育の効果

亀 田 研
杉 江 修 治

問題と目的

これまでのエイズ教育に関する研究では、実態調査研究が多く、学習による変容が捉えられていない。本研究では、大学生を対象に、効果が期待される授業モデルに基づくエイズ教育の実践を行い、プレ・ポストデザインの調査計画を立て、集団レベルでの変容を捉えることを目的とした。

先行研究での知見を整理すると、以下の4点が知られている。第一点目は、エイズの「知識」が必ずしもエイズを予防するような「行動」と相関しないこと (Skurnick, J. H., Johnson, R. L., & Quinones, M. A. 1991, Taggart, M. & Khowassah, M. 1989), 第二点目は、エイズ教育のプログラムの実施により、知識や態度のレベルには向上が見られるが、行動の変容はわずかであること (Husztai, H. C., Clopton, J. R., & Wason, P. J. 1989), 第三点目には、差別に関して知識のレベルの高い者ほど、エイズ患者に対して寛容な態度を有意に高く示すこと (Brown, L. K., & Fritz, G. K. 1988, 渡辺 1994), 第四点は、知識の量は感染者への態度に有意な影響は及ぼさないが、差別的対応を少なくすること (宗像 1992) である。

先行研究の以上の知見を考慮して、今回の研究では、HIV とエイズに関する「知識」「関心」「差別的でない態度」などの認知面、「HIV に感染する不安」などの感情面、および実際の行動である「コンドームの使用」



図1 今回の研究関心の射程

といった行動面に及ぼす，工夫されたエイズ教育の効果を検討した。

なお，本研究で用いた授業モデル Group Investigation (GI) は，イスラエルの Sharan 夫妻が提唱する協同学習のモデルであり (Sharan & Sharan 1992)，「調べ学習」のような学習者主体の探求的な学習を進める際に効果的と考えられる。これは，教師が選んだ課題をクラス全体に提示した後，「Ⅰ. クラス全体でサブテーマを決め，これに対応する研究小グループを編成する」「Ⅱ. 小グループで自分たちの探求計画を立てる」「Ⅲ. 小グループで探究活動を実行する」「Ⅳ. 小グループで自分たちの発表を計画する」「Ⅴ. グループで発表する」「Ⅵ. 教師と生徒が個人レベル，クラスレベルで GI を評価する」という 6 つの段階を踏み，12～15 時間で一つのテーマについての学習を終えるというものである。そこでは協同による学習意欲の高まり，集団思考の効果，学びの方法の同時学習などが期待される。

今回の授業モデルを下に要約して示そう。

教師による共通課題提示後の Group Investigation の各段階と教師・生徒の役割

Group Investigation の各段階	教師の活動	生徒の活動
I クラス全体でサブテーマを決め，これに対応	<ul style="list-style-type: none"> ・サブテーマを決めさせる。 ・探索的な討論のリーダー 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のある疑問点を探す。 ・それらをカテゴリー別に

する研究小グループを編成する (2~3 h)。	をつとめる。 ・共通テーマの興味深い側面に気づかせる促進者。	分類する。 ・参加したい研究小グループを選ぶ。
II 小グループで自分たちの探求計画を立てる。何を研究するのか、そしてどのように進めていくのか (1~2 h)。	・小グループが計画を立てるのを援助する。 ・協同的なグループ活動が行えるように援助する。 ・情報源を見つけるための援助をする。	・何を研究するのかを計画する。 ・情報源を選び出す。 ・役割を割り振り、取り組む課題を分担する。
III 小グループで探究活動を実行する (3~4 h)。	・研究のためのスキルを援助する ・協同的なグループ活動が行えるように援助する。	・自分たちの持った疑問の答えを追求する。 ・多様な情報源から情報を見つけ出す。 ・見つけた知見を統合し要約する。
IV 小グループで自分たちの発表を計画する (2~3 h)。	・発表の計画を伝え、委員会を組織しながらスケジュールなどを調整する。	・自分たちの見出した知見のうち何が重要かを決める。 ・クラス全体に対してそれをどのように伝えるかを検討する。
V グループで発表する (2 h)。	・発表の進行をコントロールする ・意見交流を図る。	・発表者は発表内容についてクラスメートからの意見を求める。
VI 教師と生徒が個人レベル、クラスレベルで Group Investigation を評価する (2~3 h)。	・新しい情報の処理や高いレベルの思考、協同的な行動を評価の観点に据える。	・探求者およびグループメンバーとして、活動の諸結果を理解面も含めて明確にする。

(Sharan & Sharan 1992 石田裕久・杉江修治・伊藤篤・伊藤康児訳 2001 より)

方 法

使用した質問紙 「HIV/エイズに関する意識調査」に関する調査 (厚生労働省, NTT レゾナント株式会社, 株式会社三菱総合研究所 2005) で使用された質問紙 (付表 1) である。エイズに関する関心, 不安, 偏見に

については4件法, エイズに関する知識については3件法, 理由については複数選択の項目である。

授業展開 授業は教職科目「教職総合演習」。半期13回で構成。なお, 具体的な学習指導の手順や教材などについては杉江・亀田(2007)で詳しく紹介している。

調査時期 プレテストは2006年9月29日, ポストテストは2006年12月25日に実施。

調査対象 大学3年生。プレテスト41名, ポストテスト35名。受講では4~8人の固定グループに分かれる。グループ編成は同じ学部に所属する者で編成した。時間割が類似した者同士を組み合わせることで, 授業外での共同のための時間を多く取れるようにというねらいがある。

結 果

二つの分析を行った。分析1では量的な側面, 分析2では質的な側面に焦点を当てた。

分析1では, 授業前(プレ)と授業後(ポスト)での授業を受けた学生の認知面, 感情面, 行動面の全体的な量的変化の傾向をみるためにt検定を行った。本来は対応のあるt検定をしなければならないが, 今回はプライバシーを尊重するため, 個人の特定を行わず, プレとポストでのデータの対応をとることができない。そのため, 対応のないt検定により, クラスの全体の得点の変化を検定し, 授業が与える認知, 感情, 行動への影響を全体としてみることを目標とした。

分析2では, χ^2 乗検定を用いて, プレとポストで「エイズに関する意見」の分布の変化を検討した。今回の質問紙の特徴として, 単に知識の量や不安の程度, 行動の頻度などといった量的側面だけでなく, エイズがなぜ日本で増加していると思うのか, エイズに感染する不安はどこから来るのか, といった質的側面に関しても, カテゴリー変数を用いて測定している。そのため, 個人の持つエイズに関する意見を量的ではなく, 質的に細かく分析することが可能である。そのため, 授業前(プレ)と授業後(ポ

スト）で意見の分布が偏っているのかを検定することにより、意見が全体として変容したかどうかを検討した。すなわち、授業を行ったことにより、クラス全体として意見がどのように変わったのかといった、質的变化をみることを目標とした。

分析 1 t 検定により、プレ-ポストテストでの各項目の平均値の差異を検討した。

得点化の手続きについては、HIV とエイズの違いの知識に関しては、4 件法で「わからない」を 1 点、「知らない」を 2 点、「なんとなく知っている」を 3 点、「知っている」を 4 点と得点化し平均値を算出した。HIV とエイズの関心も同様に 4 件法（関心がない、あまり関心がない、関心がある、非常に関心がある）、各知識に関しては 3 件法（知らない、なんとなく知っている、知っている）である。感染する不安に関しては 4 件法（全く不安はない、あまり不安はない、やや不安がある、大変不安がある）、コンドームの使用に関しては、4 件法で、「常に使用している」が 4 点、「だいたい使用している」が 3 点、「あまり使用していない」が 2 点、「使用していない」が 1 点と得点化している。差別的でない態度に関しては、4 件法で、「HIV 感染者やエイズ患者に対する社会的偏見や差別があってはならない」という考え方に、「同感する」なら 4 点、「どちらかといえば同感する」ならば 3 点、「どちらかといえば同感しない」が 2 点、「同感しない」ならば 1 点と得点化した。マスメディアから情報を得た程度に関しては 3 件法、「確かに情報を得た」が 3 点、「情報を得た気がする」が 2 点、「情報を得ていない」が 1 点と得点化している。

その結果、プレとポストで、対応のない t 検定を行った。「HIV とエイズに関する知識」、「関心」、「差別的でない態度」に有意な差がみられた。片側検定的な仮説として「授業後（ポスト）のほうが授業前（プレ）よりも知識面、感情面、行動面の得点が高い」という側面を検討すると、知識に関しては、ポストの方がプレよりも得点が有意に高いことが示された。つまり、今回のモデルによる授業により、エイズに関する各知識や関心、態度といった認知面には積極的な方向の変化が見られた（表 1）。

だが、「HIV に感染する不安」や「コンドームの使用」に関しては積極的な方向への有意な変化がみられなかった。これは、感情面に関する側面や行動面に関する側面についての質問紙の点数に関して、有意な上昇が見られなかったということを示している。

表 1 プレポストでの各得点の平均値の差異

質問項目	プレ		ポスト		t 値	有意水準
HIV とエイズの違いの知識	2.63	0.83	3.85	0.36	8.49	**
HIV とエイズへの関心	2.49	0.75	3.20	0.53	4.84	**
知識 1 HIV 感染とエイズの差異	1.66	0.69	2.91	0.37	10.02	**
知識 2 10 年くらい自覚症状がない	2.27	0.71	2.80	0.41	4.09	**
知識 3 早期発見であれば遅らせる治療法がある	2.03	0.80	2.74	0.56	4.54	**
知識 4 日本で HIV 感染者が増加	2.54	0.71	2.97	0.17	3.79	**
知識 5 性感染症になると HIV に感染しやすい	1.49	0.78	2.26	0.74	4.39	**
知識 6 HIV の感染は専門の検査が必要	2.02	0.85	2.66	0.59	3.81	**
知識 7 抗体が検出されない期間がある	1.90	0.92	2.49	0.70	3.14	**
あなた自身が今後 HIV に感染する不安があるか	2.41	0.84	2.54	1.04	0.60	n.s.
性交渉の際、コンドームを使用しているか	3.35	0.80	3.48	0.75	0.64	n.s.
HIV 感染者に偏見や差別があってはならない	3.15	0.86	3.74	0.44	3.81	**
この一年にマスメディアから HIV に関する情報を得た	1.88	0.68	2.51	0.74	3.90	**

** p < .01

分析2 χ^2 乗検定を用いて、プレとポストで「エイズに関する意見」の分布の偏りを検討した。その結果、プレとポストで有意な偏りがみられたものは、「エイズが増加している理由」について、「コンドームを使用していないから」が5%水準で有意（ $\chi^2=5.08$, $df=1$, $p=.024$ ）, 「予防教育等の教育が十分でないから」が5%水準で有意であった（ $\chi^2=4.45$, $df=1$, $p=.035$ ）。

このことは、授業によりコンドーム未使用のためにHIVやエイズに感染するという意見や、予防教育が不十分であるためにHIVやエイズに感染するという意見が増加したことを示している。すなわち、「コンドームの未使用」や「予防教育の不十分」といった理由を授業の中で学んだことになる。

次に、HIVに感染する不安がある理由では、予防対策が十分とられていないから、という意見が有意に増加していた。（ $\chi^2=4.03$, $df=1$, $p=.045$ 5%水準で有意：表4）。

表2 HIV感染者やエイズ患者が日本で増加している理由：
「コンドームを使用していないから」への回答（度数）

	プレ	ポスト
はい	14	21
いいえ	27	14

$\chi^2=5.08$, $df=1$, $p=.024$
5%水準で有意

表3 HIV感染者やエイズ患者が日本で増加している理由：
「予防教育等教育が不十分だから」への回答（度数）

	プレ	ポスト
はい	14	21
いいえ	27	14

$\chi^2=5.08$, $df=1$, $p=.024$
5%水準で有意

表 4 HIV に感染する不安がある理由：
「予防対策が十分とられていないから」への回答（度数）

	プ レ	ポスト
は い	17	23
いいえ	24	12

$\chi^2=4.45$, $df=1$, $p=.035$
5%水準で有意

これは、不安がある理由に関して、予防対策の不十分さに気づいたということを示唆している。つまり、授業前（プレ）では、不安の理由が漠然としていたものが、授業後（ポスト）では、不安の理由が明確になったと考えることもできよう。

また保健所に関する知識の側面での、「保健所では検査が無料匿名で受けられる」という項目では、1%水準で有意であった（ $\chi^2=10.09$, $df=1$, $p=.001$ ：表 5）。さらに、HIV に感染したかもしれないときの行動において、保健所で検査を受けると答えた割合が変化していた（1%水準で有意, $\chi^2=8.95$, $df=1$, $p=.003$ ：表 6）。

表 5 保健所に関する知識の側面
「保健所では検査が無料匿名で受けられる」への回答（度数）

	プ レ	ポスト
は い	7	18
いいえ	34	17

$\chi^2=10.09$, $df=1$, $p=.001$
1%水準で有意

表 6 HIV に感染したかもしれないときの行動
「保健所で検査を受ける」への回答（度数）

	プ レ	ポスト
は い	14	24
いいえ	27	11

$\chi^2=8.95$, $df=1$, $p=.003$
1%水準で有意

表7 政府に力を入れてほしいもの「医療体制」への回答（度数）

	プ レ	ポスト
は い	15	23
いいえ	26	12

$\chi^2=6.41$, $df=1$, $p=.021$
5%水準で有意

表8 政府に力を入れてほしいもの「偏見・差別の撤廃」への回答（度数）

	プ レ	ポスト
は い	8	20
いいえ	33	15

$\chi^2=11.49$, $df=1$, $p=.001$
1%水準で有意

最後に、巨視的な視点でのエイズに関する意見について検討したところ、政府に力を入れてほしいものに関して、「医療体制」（ $\chi^2=6.41$, $df=1$, $p=.021$, 5%水準で有意：表7）や「偏見・差別の撤廃」（ $\chi^2=11.49$, $df=1$, $p=.001$, 1%水準で有意：表8）などが授業前よりも授業後が増加した結果となった。

考 察

本研究では、Group Investigation のモデル（GI モデル）によるエイズ教育の効果を、プレポストデザインを用いて検討した。生徒の3側面（認知面、感情面、行動面）の変容のそれぞれを質問紙調査によって検討した。さらに量的な側面だけでなく、エイズの感染にたいする不安の理由や意見といった質的側面にも焦点を当てた。

その結果、量的側面の検討において、エイズ教育の前後で、知識の変容はみられたが、行動に関わる項目では有意な変化が見られなかった。これは先行研究と同様の結果になった。また質的側面である、エイズに関する意見の検討では、保健所での無料検査の知識だけではなく、実際に検査に

行くだらうという行動予期の意見も増加していた。また、HIV/エイズへの政府の対策に関しては医療体制の強化、偏見・差別の撤廃を重視すべきだという意見が増加した。

感情面である、不安については、授業を受けた後では、多くの生徒が日本でのエイズに関する予防対策が不十分であることをその理由としてあげた。授業を通して不安の「度合い」は変わらないが、不安の「理由」が深まったと考えることができる。

全体として、今回のGIモデルによる変容は、量的変化では、認知面の向上がみられ、質的变化では、感情面での質的深まりや、政府の対策などへの関心の広がりなどがみられた。また行動面では変化が見える部分が少ないが、感染したかもしれないときの保健所への無料検査へいくだらうという行動予期がみられたことから、行動へつながる可能性も示唆された。つまりGIモデルは認知面、感情面、などの変容には有効なモデルであるということが示された。行動面に関する変容までは難しいが、これは今後の課題であろう。

今後の課題としては、行動レベルの変容をどのように測定し、検討するかという点があげられる。人が行動を変容させるには、まず、知識を得て、自分と関係性の自覚をもち、その後、実際の行動のスキルをもたなくてはならない。すなわち、行動の変容までには様々なステップを踏む必要がある。参加型授業であっても、授業という形の働きかけだけでは最終ステップまでの変化を期待するのは容易ではないと考えられる。

本研究は、HIV/エイズ教育の有効な手立てとしてのGIの有効性を一定程度確かめることができた。杉江・亀田(2007)でも、学生のレポートの分析を通して学生の幅広い認知、態度の変化を読み取っている。なお、研究を進めるにあたって、統制群との比較、質問紙における知識の測定方法の工夫、協同学習の効果の由来を測定すること、すなわち、プロセスの詳細の検討を行うことなどが必要である。グループごとの分析や、個人の特性の考慮したモデルに関しても検討していく必要があるだろう。

引用文献

- Brown, L. K. & Fritz, G. K. 1988 Children's knowledge and attitudes about AIDS. *Journal of American Academy of Child and Adolescent Psychiatry*, 27-4, 504-508.
- Skurnick, J. H., Johnson, R. L., Quinones, M. A., Foster, J. D., & Louria, D. B. 1991. New Jersey high school students' knowledge, attitudes and behavior regarding AIDS. *MDS Education and Prevention*, 3, 21-30.
- 宗像恒治 1992 エイズサバイバル 日本評論社
- Sharan, Y. & Sharan, S. 1992 *Expanding Cooperative Learning through Group Investigation*. Teachers College Press. (石田裕久・杉江修治・伊藤篤・伊藤康児訳) 2000 「協同」による総合学習の設計—グループ・プロジェクト入門 北大路書房)
- 杉江修治・亀田研 2007 Group Investigation による大学生のエイズ学習—学習指導過程と学生のレポートに見る学習の成果 中京大学教養論叢, 48-2, 101-149.
- 渡辺基 1994 青少年に対するエイズ予防の学校健康教育プログラムの検討—2つのタイプのプログラムによる効果の比較 学校保健研究, 36, 37-45.

付表 質問項目とプレ・ポスト集計結果

	プレテスト		ポストテスト	
(SA) 問1 あなたの性別をお選びください。				
1 男	28	68.3	27	77.1
2 女	13	31.7	8	22.9
		(%)		(%)
(SA) 問2 あなたは、HIVとエイズの違いについて知っていますか。				
1 知っている	7	17.1	29	85.3
2 なんとなく知っている	14	34.1	5	14.7
3 知らない	18	43.9	0	0
4 わからない	2	4.9	0	0
		(%)		(%)
(SA) 問3 あなたは、HIVやエイズについてどの程度関心がありますか。				
1 非常に関心がある	3	7.3	9	25.7
2 関心がある	17	41.5	24	68.6
3 あまり関心がない	18	43.9	2	5.7
4 関心がない	3	7.3	0	0
		(%)		(%)
(SA) 問4-1 HIVに感染することは、エイズになることではない。				
1 知っている	5	12.2	31	88.6
2 なんとなく知っている	17	41.5	4	11.4
3 知らない	19	46.3	0	0
		(%)		(%)
(SA) 問4-2 HIVに感染しても、多くの場合10年くらい自覚症状はない。				
1 知っている	17	41.5	28	80.0
2 なんとなく知っている	18	43.9	7	20.0
3 知らない	6	14.6	0	0
		(%)		(%)

	プレテスト		ポストテスト	
(SA) 問 4-3 HIV に感染しても、早期発見であればエイズの発症を予防したり遅らせたりできる治療法がある。				
1 知っている	13	31.7	28	80.0
2 なんとなく知っている	15	36.6	5	14.3
3 知らない	12	29.3	2	5.7
		(%)		(%)
(SA) 問 5 あなたは、HIV 感染者やエイズ患者が日本で増加していることを知っていますか。				
1 知っている	27	65.9	34	97.1
2 なんとなく知っている	9	22.0	1	2.9
3 知らない	5	12.2	0	0
		(%)		(%)
(SA) 問 6 あなたは、HIV 感染者やエイズ患者が日本で増加していることに関してどう考えますか。あてはまるものをひとつお選びください。				
1 重要な問題で身近に起こりえる出来事である と考える	23	56.1	24	68.6
2 重要な問題として考えるが、身近に起こり える出来事ではないと考える	11	26.8	6	17.1
3 自分には関係ないので重要な問題ではない と考える	0	0	1	2.9
4 様々な病気があるので、HIV やエイズだけ が重要な問題ではないと考える	6	14.6	4	11.4
5 わからない	1	2.4	0	0
6 その他	0	0	0	0
		(%)		(%)
(MA) 問 7 あなたは、HIV 感染者やエイズ患者が日本で増加している理由は何 だと考えますか。あてはまるものをすべてお選びください。				
1 世界中で増えているから	4	9.8	6	17.1
2 現在ワクチンや治療薬がないから	9	22.0	6	17.1
3 HIV 感染の予防知識が乏しいから	23	56.1	27	77.1

		プレテスト		ポストテスト	
4	日本人の性行動が開放的になってきたから	25	61.0	22	62.9
5	日本からの海外渡航者の増加及び海外から日本への渡航者が共に増加したから	7	17.1	7	20.0
6	コンドームを使用していないから	14	34.1	21	60.0
7	予防対策等の教育が十分でないから	17	41.5	23	65.7
8	その他	0	0	1	2.9
			(%)		(%)

(SA) 問8 あなた自身が、今後 HIV に感染する不安がありますか。あてはまるものをひとつお選びください。

1	大変不安がある	4	9.8	5	14.30
2	やや不安がある	14	34.1	16	45.70
3	あまり不安はない	18	43.9	9	25.70
4	全く不安はない	5	12.2	3	8.60
5	わからない	0	0	2	5.70
			(%)		(%)

(MA) 問9 HIV に感染する不安があると思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

1	HIV 感染者やエイズ患者が増加しているから	19	46.3	17	48.6
2	身近に HIV 感染者やエイズ患者がいるから	1	2.4	1	2.9
3	ウイルスによって広く感染する病気であるから	5	12.2	2	5.7
4	ワクチンなど予防薬が開発されていないから	10	24.4	6	17.1
5	HIV 感染の予防方法が確立していないから	4	9.8	4	11.4
6	誰でも感染する可能性がある病気であるから	23	56.1	16	45.7
7	HIV 感染の予防知識が乏しいから	5	12.2	4	11.4
8	予防対策が十分とられていないから	6	14.6	12	34.3
9	予防をしようと思わないから	1	2.4	1	2.9
10	その他	1	2.4	1	2.9
11	特に理由はない				
			(%)		(%)

	プレテスト		ポストテスト	
(MA) 問 10 HIV に感染する不安はないと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。				
1 HIV 感染者やエイズ患者があまり増加していないと思うから	0	0	1	2.9
2 身近に HIV 感染者やエイズ患者がいないから	12	29.3	8	22.9
3 感染力が弱い病気であるから	5	12.2	2	5.7
4 治療薬が開発されているから	1	2.4	2	5.7
5 HIV 感染の予防方法が確立しているから	4	9.8	3	8.6
6 特定の人々の病気だと思うから	3	7.3	1	2.9
7 HIV 感染の予防知識があり、実施しているから	4	9.8	1	2.9
8 予防対策が十分とられているから	5	12.2	1	2.9
9 その他	3	7.3	4	11.4
10 特に理由はない		(%)		(%)
(MA) 問 11 HIV やエイズの感染経路としてあなたが知っているものはありますか。あてはまるものをすべてお選びください。				
1 エイズ患者や HIV 感染者との性行為による感染	40	97.6	35	100
2 エイズ患者や HIV 感染者からの輸血や、注射の共用による感染	38	92.7	35	100
3 エイズ患者や HIV 感染者の授乳や出産による母子感染	31	75.6	35	100
4 その他	1	2.4	1	2.9
5 知っているものはない	0	0	0	0
		(%)		(%)
(SA) 問 12 あなたは、クラミジアや淋病などの性感染症にかかると、HIV に感染しやすいことを知っていますか。				
1 知っている	7	17.1	15	42.9
2 なんとなく知っている	6	14.6	14	40.0
3 知らない	28	68.3	6	17.1
		(%)		(%)

	プレテスト		ポストテスト	
(MA) 問 13 あなたが HIV に感染したかもしれないと思った場合どうすると思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。				
1 病院や病院で相談する	27	65.9	19	54.3
2 保健所などの相談窓口で相談する	13	31.7	18	51.4
3 病院や病院で検査を受ける	26	63.4	17	48.6
4 保健所で検査を受ける	14	34.1	24	68.6
5 民間団体 (NGO・ボランティア) の相談窓口で相談する	4	9.8	4	11.4
6 なにもしない	0	0	0	0
7 その他	2	4.9	0	0
8 わからない	1	2.4	2	5.7
		(%)		(%)
(SA) 問 14 なにもしないと答えた方はなぜですか。あてはまるものをひとつお選びください。				
	0		0	
1 感染していると知るのが怖いから				
2 治らない病気なのでどうでもよいと思うから				
3 人に知られるのがいやだから				
4 関心がないから				
5 わからない				
6 答えたくない				
(SA) 問 15 あなたは、HIV に感染したかどうかは、専門の検査でしかわからないことを知っていますか。				
1 知っている	15	36.6	25	71.4
2 なんとなく知っている	12	29.3	8	22.9
3 知らない	14	34.1	2	5.7
		(%)		(%)

プレテスト ポストテスト

(SA) 問 16 「HIV 感染者やエイズ患者に対する社会的偏見や差別があってはならない」という考え方についてあなたはどのように感じますか。あてはまるものをひとつお選びください。

1 同感する	16	39.0	26	74.3
2 どちらかといえば同感する	16	39.0	9	25.7
3 どちらかといえば同感しない	6	14.6	0	0
4 同感しない	2	4.9	0	0
5 その他	0	0	0	0
6 わからない	1	2.4	0	0
		(%)		(%)

(SA) 問 17 もし、あなたの身近な人や友人が HIV に感染したら、あなたはどのように思いますか。あてはまるものをひとつお選びください。

1 従来と同様の付き合いをする	24	58.5	25	71.4
2 付き合いを減らす	7	17.1	3	8.6
3 付き合いをやめる	1	2.4	1	2.9
4 その他	0	0	1	2.9
5 わからない	9	22.0	5	14.3
		(%)		(%)

(SA) 問 18 もしあなたのクラスで、HIV 感染者やエイズ患者と一緒に学ぶことになったら、あなたは受け入れられますか。あてはまるものをひとつお選びください。

1 受け入れられる	15	36.6	20	57.1
2 どちらからといえば受け入れられる	13	31.7	11	31.4
3 どちらかといえば受け入れられない	6	14.6	1	2.9
4 受け入れられない	1	2.4	1	2.9
5 わからない	6	14.6	2	5.7
		(%)		(%)

	プレテスト		ポストテスト	
(MA) 問 18-1 受け入れられると思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。				
1 学ぶ権利があると思うから	11	37.9	14	46.7
2 差別はよくないと思うから	11	37.9	14	46.7
3 感染する可能性が少ないと思うから	10	34.5	11	36.7
4 気にならないから	11	37.9	13	43.3
5 その他	0	0	1	3.3
6 特に理由はない	2	6.9	1	3.3
		(%)		(%)
(MA) 問 18-2 受け入れられないと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。				
1 気遣いが必要になると思うから	7	63.6	4	57.1
2 負担が増えると思うから	1	9.1	1	14.3
3 感染する可能性があるから	3	27.3	2	28.6
4 職場環境に影響がでるから	0	0	2	28.6
5 受け入れ態勢が整っていないから	3	27.3	4	57.1
6 その他	1	9.1	0	0
7 特に理由はない	0	0	1	14.3
		(%)		(%)
(SA) 問 19 あなたは性交渉の際、コンドームを使用していますか。				
1 常に使用している	13	31.7	16	45.7
2 だいたい使用している	10	24.4	9	25.7
3 あまり使用していない	2	4.9	1	2.9
4 使用していない	1	2.4	1	2.9
5 性交渉はしない	4	9.8	1	2.9
6 その他	2	4.9	1	2.9
7 答えたくない	9	22.0	6	17.1
		(%)		(%)

プレテスト ポストテスト

(MA) 問 20 性交渉の際にコンドームを使用する理由はなんですか。あてはまるものをすべてお選びください。

	プレテスト	ポストテスト
1 避妊のため	30 73.2	31 88.6
2 HIV の感染予防のため	16 39.0	19 54.3
3 その他	2 4.9	3 8.6
4 特に理由はない	0 0	0 0
5 答えたくない	0 0	2 5.7
	(%)	(%)

(MA) 問 21 コンドームを使用しない理由はなんですか。あてはまるものをすべてお選びください。

1 コンドームを購入しにくいから	0 0	0 0
2 相手が使用を嫌うから	0 0	1 2.9
3 HIV 感染の予防に有効であるとは思わないから	0 0	0 0
4 相手が感染していないので必要ないと思うから	1 2.4	1 2.9
5 めんどくさいから	2 4.9	2 5.7
6 しらけてしまうから	1 2.4	0 0
7 快感がにぶってしまうから	1 2.4	3 8.6
8 その他	2 4.9	1 2.9
9 特に理由はない	2 4.9	2 5.7
10 答えたくない	5 12.2	2 5.7
	(%)	(%)

(SA) 問 22 あなたは、HIV に感染しても感染初期には血液中に抗体やウイルスが検出されない期間（ウインドウ期間）があることを知っていますか。

1 知っている	15 36.6	21 60.0
2 なんとなく知っている	7 17.1	10 28.6
3 知らない	19 46.3	4 11.4
	(%)	(%)

	プレテスト		ポストテスト	
(SA) 問 23 エイズ検査は全国の保健所において、匿名で、また、無料で受けることができますが、あなたはこのことを知っていますか。				
1 匿名で受けられることを知っている	12	29.3	12	34.3
2 無料で受けられることを知っている	4	9.8	3	8.6
3 匿名、無料で受けられることを知っている	7	17.1	18	51.4
4 知らなかった	18	43.9	2	5.7
		(%)		(%)
(SA) 問 24 あなたは、この1年間の間に、テレビや新聞など、各種マスメディアからエイズに関する情報を得ましたか。				
1 確かに情報を得た	7	17.1	22	62.9
2 情報を得た気がする	22	53.7	10	28.6
3 情報を得ていない	12	29.3	2	5.7
4 覚えていない	0	0	1	2.9
5 その他	0	0	0	0
		(%)		(%)
(MA) 問 25 あなたはエイズという病気についてどう思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。				
1 薬さえを飲めば発症を抑えることも出来るようになってきており、感染することは怖くない	0	0	2	5.7
2 身近に HIV 感染者やエイズ患者がいらないので具体的に認識できない	25	61.0	16	45.7
3 死ぬ病気ではなくなったとしても大変な病気であると思う	17	41.5	21	60.0
4 その他	3	7.3	1	2.9
5 わからない	2	4.9	1	2.9
		(%)		(%)

		プレテスト	ポストテスト		
(MA) 問 26	あなたは、エイズ対策に関して、政府に力を入れて欲しい対策はどのようなことですか。あてはまるものをすべてお選びください。				
1	HIV に感染する原因の究明	16	39.0	16	45.7
2	エイズに関する正確な情報提供	23	56.1	24	68.6
3	HIV 感染の予防体制の確立	23	56.1	21	60.0
4	病院などの医療体制の整備・充実	15	36.6	23	65.7
5	専門医師などの診療体制の充実	11	26.8	11	31.4
6	予防ワクチンや治療薬の研究開発	24	58.5	20	57.1
7	諸外国との連携強化	9	22.0	12	34.3
8	エイズ患者に対する偏見や差別の撤廃	8	19.5	20	57.1
9	HIV 感染予防のための普及啓発	6	14.6	18	51.4
10	HIV 感染予防のための教育	21	51.2	20	57.1
11	国や民間団体（NGO・ボランティア）など 関係機関の連携強化	4	9.8	9	25.7
12	特になし	0	0	0	0
13	その他	0	0	0	0
14	わからない	2	4.9	0	0
			(%)		(%)

(MA) 問 27 あなたは、エイズ対策に関して、日本が果たすべき国際的役割はどのようなことだと思いますか。この中からいくつでもあげてください。

1	民間団体（NGO・ボランティア）の海外活動への支援	15	36.6	16	45.7
2	医療専門家等の海外派遣	11	26.8	13	37.1
3	治療薬・治療法等の研究を通じた国際的協力	27	65.9	22	62.9
4	日本国内に在住する外国人の患者・感染者への支援	10	24.4	18	51.4
5	海外に在住する患者・感染者への情報提供などの支援	8	19.5	10	28.6
6	エイズ対策のための国際的なネットワークづくり	20	48.8	24	68.6

	プレテスト		ポストテスト	
7 国内感染の抑制	24	58.5	25	71.4
8 特になし	0	0	0	0
9 その他	0	0	2	5.7
10 わからない	3	7.3	3	8.6
		(%)		(%)

(受理日 平成20年1月9日)